

トルコギキョウの高温対策技術

【背景】

県内のトルコギキョウ栽培は、8月から9月に定植し、11月から1番花、翌春に2番花を収穫する作型が主流です。しかし、近年の気候変動による夏季から秋季にかけての高温の影響で、草丈が伸びる前に開花する「**短茎早期開花**」が増加しており、等級低下や販売価格の下落が問題となっています。

そこで、**高温障害を回避し、需要期に高品質な切り花を安定して供給できる栽培技術の確立**を目指し、試験を実施しています。今年度は、昨年度の試験で短茎早期開花の抑制に有効であった、「**赤色 LED 終夜照射（日没後～翌7:00）**」とダクトを用いた「**局所夜冷処理（18:00～翌6:00）**」を組み合わせた体系（図1、2、3）を用い、特に送風位置（成長点や株元）の最適化について検討を行いました。



図1 赤色 LED 終夜照射

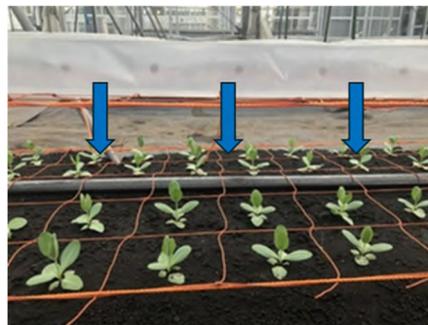


図2 局所夜冷処理（成長点）
※ダクト2カ所に穴を開け、成長点を冷やすよう斜め下に送風



図3 局所夜冷処理（株元）
※ダクト2カ所に穴を開け、株元を冷やすよう斜め上に送風

【結果】

県内の主要7品種を供試した結果、「**局所夜冷処理（株元）+赤色 LED 終夜照射**」区で**最も切花長が伸長し、秀品率も向上する**ことが明らかになりました。また、「局所夜冷処理（成長点）+赤色 LED 終夜照射」区と「赤色 LED 終夜照射」区を比較したところ、多くの品種で有意な差は認められませんでした。これらの結果から、赤色 LED 終夜照射は短茎早期開花抑制に有効であり、株元への局所夜冷処理を併用することで、その効果がさらに高まることが示唆されました。

今後は、より低コストで導入可能な外気導入方式を組み合わせ、品質向上効果について検討を行う予定です。

表 処理の違いが品種「マキア（2型）ラベンダー」の開花品質に及ぼす影響（8/8）

	開花日 ¹ (年/月/日)	切花長 (cm)	切花重 (g)	茎径 (mm)	有効花蕾数 (輪)	切り花長の割合(秀品 ²)		
						80cm	70cm	60cm
局所夜冷処理（成長点）+赤色LED終夜照射	12/2 a ³	65.5 b	36.1 b	3.9 a	3.3 ab	0% b	10% ab	13%
局所夜冷処理（株元）+赤色LED終夜照射	12/1 a	75.7 a	49.5 a	4.3 a	4.4 a	24% a	32% a	0%
赤色LED終夜照射	11/27 ab	66.6 b	36.4 b	4.0 a	3.8 ab	3% b	11% ab	14%
無処理	11/24 b	56.4 c	30.1 b	3.5 b	2.9 b	0% b	0% b	7%

注1.開花日は、3輪以上の小花が開花した日とした。

注2.秀品は、3輪1蕾以上とした。

注3.Tukey法により異符号間で5%の有意差あり。